

# 白河の高校生のための 学生寮を考える

東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科  
(一社)未来の準備室 インターンシップ生  
高田 嶺佑

## 要旨

主に福島県県南郡部から白河市の高校3校に通学する高校生とその保護者が、通学に関して抱えている課題についてヒアリングを行った。また、白河市の高校3校の在籍生徒数と生徒の居住地、通学手段、通学時間などについて統計情報を収集した。これは、課題解決手段として学生向けの寮・ゲストハウスのニーズについて調査することが目的である。

調査の結果、白河市の高校3校の生徒のうち、25%が西白河郡から、11%が東白川郡から、通学していることがわかった。主に東白川郡から白河市に通学する高校生へのヒアリングの結果、部活動や課外活動の活動時間が制限されている現状や、週末の活動の場合は電車・バスの便も減少するため朝早い時間から保護者の送迎で移動している現状が明らかになった。そのように生徒・保護者ともに負担がかかっている現状に対し、下宿としての機能の他に1泊だけでも泊まれるような短期宿泊の設備も整った学生寮を白河市に設けることによって、負担が軽減されるのではないかと考えた。

# 目次

1. はじめに	4
2. 各地域の現状	4
2-1 県南地域	4
2-1-1 白河市	4
2-1-2 東白川郡	4
2-1-2-1 棚倉町	4
2-1-2-2 埴町	4
2-1-2-3 矢祭町	5
2-1-2-4 鮫川村	5
2-2 高校	5
2-2-1 白河高校	5
2-2-2 白河旭高校	5
2-2-3 白河実業高校	5
3. 調査方法	6
3-1 調査期間	6
3-2 調査手段	6
3-2-1 統計情報の収集	6
3-2-2 ヒアリング調査	6
3-2-1-1 高校生・保護者へのヒアリング対象者の内訳	6
4. 調査結果	7
4-1 統計情報	7
4-1-1 地域	7
4-1-2 通学手段	8
4-1-3 通学時間	8
4-1-4 出身中学校について	9
4-1-4-1 中学校・小学校の生徒数と、9 年後までの高校生徒数の動向	9
4-1-4-2 2018 年度の県南地区の小・中学校の生徒数	10
4-1-4-3 2015 年度の県南地区の中学校の生徒数と進学率	11
4-1-4-4 9 年後までの白河 3 高校の高校 1 年生(入学者数)の予測	11
4-1-4-4 県が予測している統計資料	12
4-2 ヒアリング調査	13
4-2-1 教員	13
4-2-1-1 通学について	13

4-2-1-2	放課後について	13
4-2-1-3	学習・生活・進路について	14
4-2-2	生徒	14
4-2-2-1	白河市	14
4-2-2-2	棚倉町	15
4-2-2-3	埴町	15
4-2-2-4	矢祭町	16
4-2-3	保護者	18
4-2-3-1	埴町	18
4-2-3-2	矢祭町	19
4-2-3-3	鮫川村	19
5.	考察	19
5-1	通学の面	19
5-2	高校生活	20
5-3	学生寮のあり方	21
5-4	理想の学生寮とは	21
6.	参考資料	21

## 1.はじめに

一般社団法人・未来の準備室では、白河市役所と協働して、白河市の高校に通学する高校生の課題を解決するため、2015年より「コミュニティ・カフェ EMANON」を運営している。高校生のための居場所(カフェ)の運営を通じて、高校生主体のイベントの開催・学習支援・世代間交流等に取り組んでいる。

高校生の地域での活動を支援するために事業を行なっているが、高校生の放課後の多忙さ・通学の困難さによって参加者が限られる状況がある。今後さらに高校生の居場所づくりに取り組むため、通学に関する課題を解決する事業を検討している。今回「通学手段によって高校生活に支障が生じているのではないか」という仮説を設定し、主に県南郡部から白河市の高校3校に通学する高校生やその保護者が現在抱えている課題・現状についてヒアリングを行なった。これは課題解決手法として、学生向けの寮・ゲストハウスのニーズを調査したものである。

## 2.各地域の現状

### 2-1 県南地域

福島県の中通り南部は、県南地域と呼ばれている。白河市のほか、西白河郡と東白川郡の2つの郡がある。西白河郡は矢吹町・中島村・泉崎村・西郷村が、東白川郡は棚倉町、埴町、矢祭町、鮫川村が所属している。

#### 2-1-1 白河市

福島県中通りの南部に位置する市。関東地方から国道4号線・東北本線・東北新幹線・東北自動車道が通っている。奥州の3大関所として、江戸時代から交通の要所として発展していた都市である。

#### 2-1-2 東白川郡

棚倉町、埴町、矢祭町、鮫川村の3町1村からなる。福島県白河市の東側、福島県いわき市の西側、南は茨城県の北側との県境に位置している。

##### 2-1-2-1 棚倉町

白河市から南東の方角で18キロに位置する町。国道289号が白河市から繋がっている。また、JRバス関東白河支店が運用している「JRバス白棚線」が白河市から通っている。郡山市と水戸市を結ぶ水郡線が通っており、磐城棚倉駅・中豊駅・近津駅がある。

##### 2-1-2-2 埴町

白河市から南東の方角で25キロに位置する町。棚倉町、矢祭町に隣接しており、3町にまたがる形で国道118号線が通っている。また、郡山市と水戸市を結ぶ水郡線が通っており、磐城埴駅がある。

### 2-1-2-3 矢祭町

白河市から南東の方角で 34 キロに位置する町。埴町から国道 118 号線が通っている。南は茨城県に接続している。また、郡山市と水戸市を結ぶ水郡線が通っており、磐城石井駅・南石井駅・東館駅・矢祭山駅がある。

### 2-1-2-4 鮫川村

白河市から 55 キロ、棚倉町の東側に位置する町。埴町と隣接している。東白川郡で唯一、鉄道が通っていない。

## 2-2 高校

白河市には、県立高校が 3 校あり、白河市をはじめとする県南地区の高校生が通学をしている。

### 2-2-1 白河高校

白河市南登り町に位置する全日制高校。普通科と理数科の 2 つが設けられている。大半の生徒が大学へ進学する学校である。理数科は学区が定められておらず、栃木県などから越境入学する生徒もいる。部活動では剣道部や弓道部で国体に出場するなどの実績がある。

### 2-2-2 白河旭高校

白河市旭町に位置する全日制高校で、普通科のみが設けられている。白河高校と多くの生徒が大学へ進学する高校である。生徒の殆どが部活動に所属しており、学業と部活の両立に力を入れている高校である。運動部の殆どが毎年県大会に出場している。

### 2-2-3 白河実業高校

白河市瀬戸原に位置する全日制高校。農業科・機械科・電気科・電子科・情報ビジネス科が設けられており、実習や課題研究を行なっている。郊外に広がる広い敷地が特徴。就職を目標とする生徒が多く、県内企業への就職実績が高い。部活動は自転車部が国体の常連であり、競輪選手も輩出している。

### 3.調査方法

#### 3-1 調査期間

2018年8月16日～9月15日

復興庁の「復興・創生インターンシップ」の実施期間に基づく。

#### 3-2 調査手段

##### 3-2-1 統計情報の収集

高校から現在の在籍生徒数と生徒の居住地、通学手段、通学時間についての情報を収集した。また、福島県教育庁・県南教育事務所から県南地区の小中学校生徒数についての情報を収集した。

##### 3-2-2 ヒアリング調査

白河市の高校に通う高校生を対象に、通学手段や通学時間、放課後の過ごし方と、今の高校生活で困っていることについてヒアリングを行った。ヒアリング調査はコミュニティ・カフェ EMANON を拠点として行なった。また、市町村役場や公共施設を訪問し、高校生の子どもを持つ職員を紹介してもらい、保護者にも同様のヒアリングを行なった。さらに、白河市の3高校に訪問し、主に進路指導や部活動に携わっている先生に、長距離通学している生徒や放課後の部活動の様子、現在下宿やアパートにて1人暮らしして通学している生徒の様子についてヒアリングを行なった。

##### 3-2-1-1 高校生・保護者へのヒアリング対象者の内訳

居住地	白河高校	白河旭高校	白河実業高校	その他
白河市	高校生1名	高校生4名	高校生3名	高校生1名
西郷村			高校生1名	
棚倉町	高校生2名			
塙町	高校生1名 保護者1名	保護者2名		
矢祭町	高校生1名 保護者1名	高校生1名 保護者1名		
鮫川村	保護者1名			
矢吹町			高校生1名	

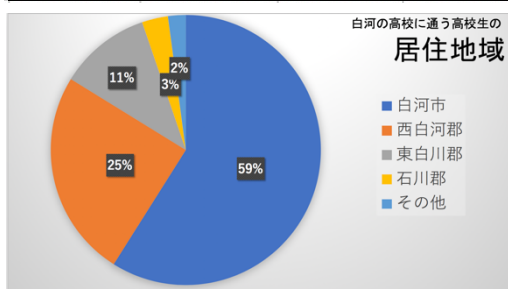
## 4.調査結果

### 4-1 統計情報

各高校が2018年度の在校生にアンケートを行い、出身地域・通学手段・通学時間・出身中学校を統計したものを提供していただいた。そのデータを元に作成した。

#### 4-1-1 地域

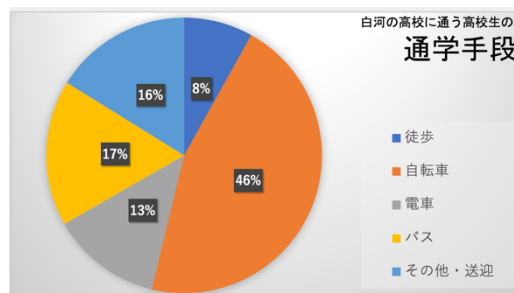
	白河高校	旭高校	実業高校		白河高校	旭高校	実業高校
白河市	423	326	419	石川町	5	9	20
西郷村	98	100	148	浅川町	19	9	
矢吹町	42	30	27	鏡石町	8		3
中島村	19	13	15	天栄村	2		
泉崎村	26	25	22	須賀川市	4	8	7
棚倉町	56	45	37	郡山市	4		
矢祭町	13	9		その他	4		1
埴町	29	18		県外		1	
鮫川村	5	5		合計	757	598	699



以上のデータによると、白河市の高校に通う高校生の約6割が白河市から通学している。市外から通学している高校生は全体の39%である。そのうち11%が東白川郡から通学しているが、特に棚倉町と埴町から通学している生徒が多い。

#### 4-1-2 通学手段

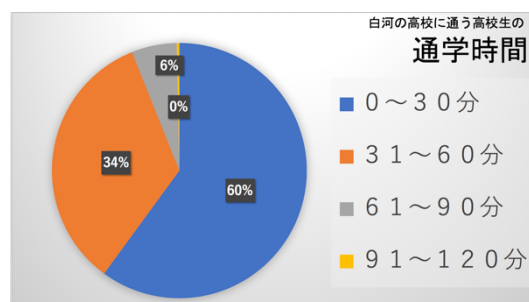
	白河高校	旭高校	実業高校	合計
徒歩	87	58	21	166
自転車	279	226	431	936
電車	117	85	63	265
バス	149	108	94	351
電車バス	8			8
その他	120	121	90	331
送迎				



約5割の生徒が自転車で通学している。電車・バスを利用して通学している生徒は全高校生の約3割に相当する。また、16%の生徒はその他と答えており、その中に親の送迎で通学する生徒も含まれている。なお、自転車・徒歩通学の生徒の中にも、主に雨天時や寝坊した時に送迎で通学をする生徒も一定数存在することが、ヒアリングから推測される。

#### 4-1-3 通学時間

		白河高校	旭高校	実業高校	合計
0～30	0～15	469	321	130	1239
	15～30			319	
31～60		246	240	213	699
61～90		43	35	34	118
91～120		2	2	3	7
121～		0	0	0	0
合計		760	598	699	2057



約6割の生徒が30分以内、約9割の生徒が60分以内に通学できている。その中でも、親の送迎で通学する生徒は、親の都合などによっては、60分以上かけて通学する場合もあることが、ヒアリングから推測される。また、90分以上かけて通学している生徒も若干数存在する。



#### 4-1-4 出身中学校について

##### 4-1-4-1 中学校・小学校の生徒数と、9年後までの高校生徒数の動向

	白河高校	旭高校	実業高校	合計
白河市内	419	315	410	1144
大信	20	14	18	52
西郷第一	47	53	86	186
西郷第二	40	41	45	126
川谷	5	3	8	16
中島	21	13	16	50
矢吹	41	29	26	96
泉崎	25	25	24	74
棚倉	57	45	28	130
浅川	21	9	15	45
天栄	0	3	1	4
埴	31	18	22	133
矢祭	13	9		
鮫川	7	5		
石川	5	9		
古殿	1	0		
鏡石	7	4		
須賀川第一	0	0		
長沼	0	0		
蓬田	0	0		
県外	0	2		
その他	0	0		

#### 4-1-4-2 2018 年度の県南地区の小・中学校の生徒数

2018 年度の県南地域の市町村ごとに小中学校の児童・生徒数を一覧にした。

	白河	西郷	矢吹	中島	泉崎	棚倉	矢祭	埴	鮫川
中3	628	178	143	54	54	139	50	68	40
中2	578	195	135	43	49	129	44	69	34
中1	548	161	149	53	56	136	48	60	17
小6	556	175	138	44	61	107	42	75	29
小5	522	178	151	57	66	103	38	70	28
小4	501	176	156	36	64	133	37	70	30
小3	492	179	165	34	62	124	43	54	38
小2	515	196	133	58	45	140	48	63	32
小1	518	161	144	52	53	95	51	61	26

#### 4-1-4-3 2015 年度の県南地区の中学校の生徒数と進学率

単純計算すると2015年度の中学校に在籍していた生徒が、現在の高校1年生から3年生にあたる。

地域	白河	西郷	矢吹	中島	泉崎	棚倉	矢祭	埴	鮫川
県内3高校 在籍生徒合計 (2018年度)	1168	346	99	47	73	122	26	57	12
2015年度 中学生合計	1971	608	531	172	230	433	140	225	94

各市町村の2015年当時の中学校生徒数と今の各高校の地域別生徒数をもとに、各市町村から白河の3高校への進学率を推計した。

地域	白河	西郷	矢吹	中島	泉崎	棚倉	矢祭	埴	鮫川
全体 進学率	59%	57%	19%	27%	32%	28%	19%	25%	13%
白河高校 進学率	21%	16%	8%	11%	11%	13%	9%	13%	5%
旭高校 進学率	17%	16%	6%	7%	11%	10%	6%	8%	5%
実業高校 進学率	21%	24%	5%	9%	10%	5%	3%	4%	2%

#### 4-1-4-4 9年後までの白河3高校の高校1年生(入学者数)の予測

前述した各市町村の進学率を現在の小中学校の生徒数とかけあわせることで、9年後(今の小学1年生が高校1年生になるとき)まで何人が白河の3高校に進学するか推計した。なお、転入・転出はないものと仮定し進学率も変化しないものとしている。

##### 4-1-4-4-1 白河高校の高校1年生(入学者数)の予測

			白河	西郷	矢吹	中島	泉崎	棚倉	矢祭	塙	鮫川
1年後	中3	2019年入学見込み	132	28	11	6	6	18	5	9	2
2年後	中2	2020年入学見込み	121	31	11	5	5	17	4	9	2
3年後	中1	2021年入学見込み	115	26	12	6	6	18	4	8	1
4年後	小6	2022年入学見込み	117	28	11	5	7	14	4	10	1
5年後	小5	2023年入学見込み	110	28	12	6	7	13	3	9	1
6年後	小4	2024年入学見込み	105	28	12	4	7	17	3	9	2
7年後	小3	2025年入学見込み	103	29	13	4	7	16	4	7	2
8年後	小2	2026年入学見込み	108	31	11	6	5	18	4	8	2
9年後	小1	2027年入学見込み	109	26	12	6	6	12	5	8	1

##### 4-1-4-4-2 白河旭高校の高校1年生(入学者数)の予測

			白河	西郷	矢吹	中島	泉崎	棚倉	矢祭	塙	鮫川
1年後	中3	2019年入学見込み	107	28	9	4	6	14	3	5	2
2年後	中2	2020年入学見込み	98	31	8	3	5	13	3	6	2
3年後	中1	2021年入学見込み	93	26	9	4	6	14	3	5	1
4年後	小6	2022年入学見込み	95	28	8	4	7	11	3	6	1
5年後	小5	2023年入学見込み	89	28	9	5	7	10	2	6	1
6年後	小4	2024年入学見込み	85	28	9	3	7	13	2	6	2
7年後	小3	2025年入学見込み	84	29	10	3	7	12	3	4	2
8年後	小2	2026年入学見込み	88	31	8	5	5	14	3	5	2
9年後	小1	2027年入学見込み	88	26	9	4	6	10	3	5	1

##### 4-1-4-4-2 白河実業高校の高校1年生(入学者数)の予測

			白河	西郷	矢吹	中島	泉崎	棚倉	矢祭	塙	鮫川
1年後	中3	2019年入学見込み	107	28	9	4	6	14	3	5	2
2年後	中2	2020年入学見込み	98	31	8	3	5	13	3	6	2
3年後	中1	2021年入学見込み	93	26	9	4	6	14	3	5	1
4年後	小6	2022年入学見込み	95	28	8	4	7	11	3	6	1
5年後	小5	2023年入学見込み	89	28	9	5	7	10	2	6	1
6年後	小4	2024年入学見込み	85	28	9	3	7	13	2	6	2
7年後	小3	2025年入学見込み	84	29	10	3	7	12	3	4	2
8年後	小2	2026年入学見込み	88	31	8	5	5	14	3	5	2
9年後	小1	2027年入学見込み	88	26	9	4	6	10	3	5	1

#### 4-1-4-4 県が予測している統計資料

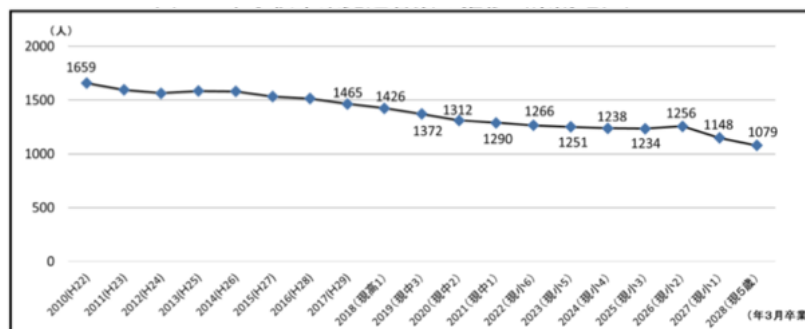
福島県の中学卒業生・卒業見込者は、2010年3月に約21900名<sup>1</sup>だったのに対して、2028年は13100人に減少すると見込まれている。その後も増加する見込みはない。県南地区では、中学卒業生・卒業見込者は2010年から2028年までに580名減少すると見込まれている<sup>2</sup>。それに伴い10学級減少することも想定されている。

<図1 福島県の中学校卒業生及び卒業見込者数の推移>



出典：2016年（平成28年）3月までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。2017年（平成29年）3月は、同課編「平成29年度学校基本調査結果速報」、2018年（平成30年）3月～2026年3月までは各学年の在籍者数をもとに作成。2027年3月～2031年3月までは同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

<図2 中学校卒業見込者数の推移（県南地区）>



<sup>1</sup> 県立高等学校改革基本計画(2019年度～2028年度)

(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/268521.pdf>)29 ページより  
2018年8月27日閲覧。図1は当該ページの図21を引用。

<sup>2</sup> 県立高等学校改革基本計画(2019年度～2028年度)

(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/268521.pdf>)29 ページより  
2018年8月27日閲覧。図2は当該ページの図29を引用。

## 4-2 ヒアリング調査

### 4-2-1 教員

白河市内の3高校の教員の方8名にヒアリングを行なった。「通学について」「放課後の過ごし方」「学習・生活・進路について」3つのヒアリング項目を設定し、直接対面で話を聞いた。

#### 4-2-1-1 通学について

白河高校では、4割ほどの生徒が電車・バスで通学している。長距離の通学をしている生徒の様子としては、入学後最初の3ヶ月間は通学が辛そうに見える生徒も見受けられる。次第に慣れていくと共に、生活リズムができる生徒が多い。県南郡部から通学する生徒の、保護者が白河市内に勤めているということが多く、親の送迎で登校する生徒も多い。

白河旭高校では、200名以上の生徒が自転車通学をしている。通学時間についてもある程度の覚悟を持って入学している生徒が多い。部活動では親の迎えのため早く帰る生徒も見受けられる。家庭の事情なので仕方ないとのことである。

白河実業高校では、県南郡部や浅川町から、電車を乗り継ぐか親の送迎で通学している生徒がいる。また自転車部には、30km離れた栃木県から自転車で通学している生徒や、白河市内にアパートを借りて住む生徒もいる。ヨークベニマル横町店の隣に「寿楽荘」という下宿に、実業高校の自転車部の生徒などが利用していたが、今年の3月に卒業した生徒を最後に閉鎖してしまった。

#### 4-2-1-2 放課後について

いずれの高校も部活動は長くても18時30分には一旦終了しており、19時台の電車・バスで帰宅することができる配慮がある。一部の部活動ではそのあとに生徒が自主的に練習を行っている。旭高校のバレーボール部では自主練習が長引いてしまったことで、保護者から「終了時間がきちっと決まっていないなですね」と誤解されてしまったこともある。

白河高校では1年生の段階で80～90%の生徒が部活動をしている。理数科の部活動加入率は低い傾向にある。「白河高校で剣道がしたい」と矢祭町からアパートに住んで通学している生徒がいて、顧問が生活指導を行なっている。

旭高校では 100%近い生徒が部活動に所属している。3 年生の引退の時期でも部活動加入率は 80~90%である。朝練には顧問が来ないといけ  
ないので、強制はしておらず自主的な活動になっている。

実業高校では、前述の通り自転車部にて白河のアパートに1人暮らしし  
て通学している生徒がいる。その生徒は会津若松市出身の1年生で、現  
在は白河駅前のアパートに一人暮らししている。週 3 回母親が訪問し、ご  
飯を作り置きしている。入学当初は頼りない印象だったが、現在は部活も  
授業も欠席することなく過ごしているようだ。スポーツ推薦で入学を希望  
している遠方の受験生から下宿について相談が来ることがある。

#### 4-2-1-3 学習・生活・進路について

学習面では、通学時間の長い生徒へのフォローは特段行っていない。  
部活をやらずに勉強に専念する生徒と、部活と両立させようとする生徒の  
2 種類に分かれる傾向がある。生徒の中には、学習塾に通い、自習室を  
借りている人もいる。白河高校は夏休み期間中に課外授業を行なってい  
る。今年の夏休みは 7 月中に 6 日間、8 月中に 6 日間(お盆期間中の 2  
日間を含む)、課外を行なった。白河旭高校では、朝 8 時 10 分より自習  
時間を設けている。登校指導も行なっており、8 時 10 分までに登校できな  
かった生徒には声かけをしている。

進路面では、白河高校では、生徒・保護者それぞれの進路の希望を尊  
重することを心がけており、保護者の意見だけに偏らず、生徒自らの意見  
を反映させた進路選択を目指している。白河実業高校でも就職の際に 5、  
10 年後のイメージを親子で共有することを心がけている。年々、進路選択  
の地元志向が強くなり、栃木県など、白河市周辺の大学への進学率が高  
い。

### 4-2-2 生徒

#### 4-2-2-1 白河市

9 名の高校生にヒアリングを行なった。うち 5 名は自転車、2 名は東北  
本線や白河循環バス(こみねっ)で、2 名は保護者の送迎で通学してい  
る。

東北本線を利用している生徒は、自宅から駅までの区間は自転車を利用  
している。東北本線のダイヤは 1 時間に 1 回、白河循環バスは 1 日 3  
回しか便がないため、バス・電車で通学している高校生 2 名からは、ダイ  
ヤをもっと増やして欲しいという意見が挙がった。



保護者の送迎で通学する場合、あらかじめ帰宅時間を保護者に連絡し、その時間に合わせて放課後の時間をやりくりしなければならない。例えば友人と遊んでいて解散時間が押してしまった場合などは途中で帰宅しなければならない。また、活動を終え家に帰りたい時間帯に保護者が用事がある場合は、送迎可能な時間まで待つ必要がある。

#### 4-2-2-2 棚倉町

2名の高校生にヒアリングをした。

祖父岡から磐城棚倉駅を經由し、新白河駅を経て白河駅までJRバス白棚線が走っている。白河市までは18km近く離れているが、白棚線を利用することで通学ができる。祖父岡から磐城棚倉駅経由の便が朝6時から8時までの2時間に5便、磐城棚倉駅起点の便が2便の計7便が走っているため、そのいずれかに乗車して通学をしている。



JRバス白棚線

白棚線は週末・休日・夏休みはバスの便数が通学時間帯で2本少なくなる。例として平日は朝6時45分に祖父岡を出発し6時52分に磐城棚倉駅を通り白河市内へ向かう便は運休となる。普段平日はその6時52分に磐城棚倉駅を出発するのがちょうど良いという人は、土曜日は1つ早い便を利用しなければならない。普段より早く起きて自宅を出発しなければならないため、高校生からは夏休み中と土日に登校をさせないで欲しいという声もある。

前述の通り、白河高校の場合は夏休み期間中に課外がある。お盆の登校日は特別ダイヤに代わり、朝の通学時間帯は6便減り、1便のみになってしまう。その日は高校生で大行列ができる。

#### 4-2-2-3 埜町

1名の高校生にヒアリングをした。

埜町・矢祭町の2地域から公共交通機関で白河市にアクセスするには、水郡線で棚倉町の磐城棚倉駅に向かい、そこから白棚線に乗り通学している。また、埜町・矢祭町の高校生をもつ保護者の有志で、「白河地域高等学校通学生徒保護者会」を組み、ダリア観光バスに委託する形で「ダリア通学

バス」を運行している。そのため、水郡線と白棚線を乗り継ぐか、ダリア通学バスで通学するかの2択となっている。

その生徒は部活動に所属していないため、16時55分に白河高校を出発する便で帰宅する。なお放課後に白河市内で習い事へ向かう場合は白棚線の最終便で棚倉町まで向かった後、保護者の送迎で帰宅している。

ダリア通学バスは矢祭町、埴町を経由後、白河高校と白河旭高校へ直行する。白河高校、白河旭高校、白河実業高校の生徒を対象としているが、白河実業高校前には停留しない。

また週末は全校模試の場合を除き、バスの運行をしていない。そのため、1学年のみを対象にした模試の日などは、朝は保護者に送迎してもらい、帰りは白棚線と水郡線で帰宅するなど、臨機応変な対応をしている。

#### 4-2-2-4 矢祭町

1名の高校生にヒアリングをした。

埴町同様、ダリア通学バスを利用するか、水郡線と白棚線の乗り継ぎで通学ができる。

その生徒はダリア通学バスにて通学をしている。吹奏楽部に入っている。平日の部活のときは部活終了後、ダリア通学バスに19時30分に旭高校を出発する便で帰宅する。週末の部活の時は保護者に送迎してもらっている。週末の部活終わった後は塾に行ったり友達と遊んだりした後に白棚線と水郡線を乗り継いで帰宅している。

帰りの電車バスの時間や、次の日の朝を考えると、あまり自由に週末を過ごすことができないのが課題である。友達と遊んでいるときに「バスがあるから」と言って途中で抜けることがよくある。



<図3 ダリア通学バス 運行状況表<sup>3</sup>>

★通学対象学校 白河高校、白河旭高校、白河実業高校

★バス運行状況 朝1便、帰り2便

朝1便	→ 6:30	6:56	6:58	7:55	8:10	
	矢祭・ 天神沢発	5ヶ所停車 塙代官町	塙町 役場前	白河高校前	白河旭高校前	
帰り2便	18:10	17:47	17:45	16:55	16:45	←1便目
	矢祭・ 天神沢着	塙代官町	塙町 役場前	白河高校前	白河旭高校前	
	20:39	20:14	20:12	19:30	19:20	←2便目
	矢祭・ 天神沢着	塙代官町	塙町 役場前	白河高校前	白河旭高校前	

※JRバス白棚線を利用する場合

朝(一例)：祖父岡6:45発・棚倉駅6:52発 → 白河高校前7:41着、旭高校前7:53着  
各駅(39停留所)停車です。「ダリア通学バス」は、直通です。

※「ダリア通学バス」は、全席確実に座れます。

基本、平日運行ですが、土曜日に全学年模試などある場合、また、夏休みの課外授業は特別運行します。

運行日は、学校・バス会社・保護者会で打合せして決めています。

<sup>3</sup> 白河地区高等学校通学生徒保護者会制作。白河地区高等学校通学バスについて」より引用。保護者提供。

<図4 ダリア通学バス 運行予定表(2018年6月)<sup>4</sup>>

通学バス 運行予定表(6月)

	朝運行	帰 路								記 事
		通常時				試験時及特別時間				
		旭高	白河高	白河高	旭高	旭高	白河高	白河高	旭高	
出発地	矢祭山	旭高	白河高	白河高	旭高	旭高	白河高	白河高	旭高	
経由	旭高校	直通		直通		直通		直通		
行先	白河高校	矢祭山		矢祭山		矢祭山		矢祭山		
		早番車		遅番車		早番車		遅番車		
1 金	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
2 土	...									
3 日	...									
4 月	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
5 火	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
6 水	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
7 木	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
8 金	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
9 土	...									
10 日	...									
11 月	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
12 火	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
13 水	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
14 木	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
15 金	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
16 土	○(小)					14:30	18:10 → 18:20			両校模試
17 日	...									
18 月	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
19 火	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
20 水	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
21 木	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
22 金	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
23 土	○(小)						13:30 → 13:40			旭高校模試
24 日	...									
25 月	○	16:50 → 17:00	19:20 → 19:30							
26 火	○					14:30 → 14:40				両校期末テスト
27 水	○					14:30 → 14:40				両校期末テスト
28 木	○					14:30 → 14:40				両校期末テスト
29 金	○					14:30 → 14:40	17:30 → 17:40			両校期末テスト最終日
30 土	○					15:20 → 15:30	18:10 → 18:20			両校模試(1年-3年)

#### 4-2-2 保護者

東白川郡の3町村から子どもを白河高校、旭高校に通学させている保護者にヒアリングを行なった。ヒアリング項目として「朝と帰りの通学手段」「放課後の活動」「送迎」の3項目を設定し、直接対面で話を聞いた。

##### 4-2-3-1 埴町

3名の保護者にヒアリングを行なった。

埴町でヒアリングを行なった保護者のうち、1名がダリア通学バスを利用している。1名は父親が白河市に通勤しているため、通勤の車で送迎しており、もう1名は棚倉町まで車で送迎し、白棚線で通学している。水郡線は2時間

<sup>4</sup> 白河旭高校より提供。

に1回ペースでしか運行していないため、磐城棚倉町までは送迎する家庭が多い。

埜町の保護者の間では、棚倉町までは送っていけるという認識が広まっているため、ダリア通学バスで通学する高校生24名中、埜町から乗車する高校生は4名に留まっている。

#### 4-2-3-2 矢祭町

2名の保護者に話を聞いた。

両者ともダリア通学バスを利用しているが、週末にダリア通学バスの便がないことと、水郡線の運行ペースが2時間に1回であることで、週末の部活動のために送迎することが負担になっている。

帰りの電車バスの時間や次の日の朝を考えると、あまり自由に週末を過ごさせることができないことに対して、もっと遊びたいだろうに、可哀想だと感じる。

また、部活動の練習時間が長引くと19時30分に旭高校を出発するダリア通学バスを逃してしまうことに対しては、「どうしてもそのバス乗ってもらわないとうちの方は迎えにいけない」と保護者からも顧問の先生に伝えていた。

部活動の大会の時は、高校集合時間が6時にされていた。これは電車バスの始発の到着時間より早い。そのため親の送迎でしか通学ができない上に、朝は4時半ごろに起き、5時に家を出て、6時に学校着というケースもあった。「結構それは辛かったです」と話していた。結果、生活への負担の大きさや、学問との両立の難しさによって、高校2年次に部活動を辞めてしまった。

#### 4-2-3-3 鮫川村

1名の保護者にヒアリングを行なった。

磐城棚倉駅まで祖母が送迎されている。もし、祖母がいなければ通学は厳しかった。白棚線の混雑を避けて通学している。ただ、受験シーズンに混雑したバスに乗ることで、インフルエンザに感染してしまわないか不安であった。

## 5. 考察

### 5-1 通学の面

東白川郡の各市町村から白河市の高校へ向かうツールとして白棚線が棚倉町から運行している。埜町、矢祭町、鮫川村から通学する場合は水郡線などで磐城棚倉駅まで向かい、そこから白棚線に乗車する必要がある。

また、この地域の交通機関のダイヤ数が少なく、白棚線は通学時間帯を除き1時間に1回ペース、水郡線は2時間に1回ペースである。ダリア通学バスは1日3回のみでの運行である。そのため、自由な時間に通学、帰宅することはできない。

週末のバスの台数が少ない日などを中心に保護者が車で送迎して通学している生徒も多かった。また、保護者が白河市内に勤めている人は、毎日学校まで送迎で通学していた。一方で保護者への負担も大きい。例えば、保護者が仕事が休みの日でも、ゆっくり休むことができず、子どもを朝に学校へ通学するために早く起きる必要がある。高校生も「親が休みなのに学校へ送り迎えしてもらうのは申し訳ない」と話していた。

## 5-2 高校生活

生徒たちは、白河の高校にて毎日の授業と並行して、新たな交友関係を作っていたり、大会へ向けて部活動に励んだり、それぞれがやりたいことをして、充実した高校生活を楽しんでいる。そのような活動についてヒアリングを行なった高校生からは、「人一倍部活動を頑張りたい」「自宅で過ごすのも楽しいが、白河で過ごすのも楽しい」といった声がある。

その一方でバスの時間のために部活動や友人との時間を途中で切り上げて帰宅する必要な場合ならず、部活動や友人との時間を存分に楽しむことができない。

朝は6時台のバスに乗るために、5時から5時30分という早い時間に起きる必要がある。朝が早いあまり、疲れきってしまい夜は家庭学習がままならない状態で就寝してしまう。家で勉強する時間がとれず、学校の成績が低迷してしまい部活動を諦めざるを得ないケースもある。さらに、部活動の大会前は、遅くまで練習やミーティングをしたあとに家に帰り、朝4時に起きて大会へ向かうといった過密なスケジュールをこなす必要がある。

## 5-3 学生寮のあり方

過密なスケジュールで通学している生徒も、毎日の生活で生活リズムに慣れ、時間管理のスキルも身につくことと、保護者によるサポートによって、毎日通学ができている。

しかし、通学時間によって、高校生活に時間的な制限がかかっている現状もある。制限によって、部活動を途中で抜けたり、退部してしまう事態も発生している。友人と遊んでいても途中で抜けないといけないなど、人間関係に支障がある場合もある。

白河市の高校に県南郡部から通う高校生のその負担を少しでも解消し、さらに充実した高校生活を送るために、白河市に学生寮という選択肢が必要だと考える。

しかし、親元を離れて生活することに不安を感じる声も多くある。下宿に対しては「高校生までは家においておきたい」「下宿してまで通わせることはしない」「洗濯や家事をしっかりとできるのか」といった声がある。

それでも、大会前の部活動の練習が追い込みで遅くまで練習したい時や、前日の朝の集合時間が早い時、電車バスの時間を気にせずに遊びたい時は、白河市内で泊まれる場所が欲しいという声がある。今までの下宿のような、長期的な住まいを提供するだけでなく、部活動の大会前や、電車・バスを逃したときに、白河市内で安心して1泊だけ泊まれるような場所が求められている。そのような機能を設けた上で、学生寮のサービスを高校生に提供することに、可能性があると考えます。

#### 5-4 理想の学生寮とは

第一に、入居者の生活を管理するいわゆる寮母の存在が重要になる。現在白河市には高校生向けの下宿がなく、白河の高校で部活動・スポーツに励みたいと遠方からアパートに一人暮らしして通学している生徒もいる。下宿のように、管理をしてくれる者がいる環境の方が、安心して住むことができるのと考えます。実際にヒアリングでも遠方からの入学・入部希望者に対して「寮があった方が安心して入れますよね」という意見が挙がった。だから、寮母として入居した生徒の生活を見守り、管理してくれる人の存在が重要になる。また、寮母を中心に生徒にバランスの良い朝食と夕食、学校へ持参するお弁当を提供することで、食を通じてスポーツに必要な栄養分を補給できる上に、自炊についての保護者の不安も解消できる。

第二に、前述の通り泊まりたいときに1泊だけでも泊まれるような短期宿泊の設備が求められる。長時間通学の時間を短縮することで忙しい時期でも時間を有効利用でき、今まで以上に落ち着いた生活が可能である。急な宿泊でも対処できるように常に空き部屋を設け、その中にはいつでも安心して宿泊できるようなアメニティを設けられたら良いと考えます。遠方から通学する高校生が白河市内に泊まりたいというときは、部活動の大会前など慌ただしい時期が多いことが推測される。時間的にも精神的にもバタバタしている状態で宿泊しても、一息ついて眠りにつき疲れが癒せるような、あたたかい落ち着いた雰囲気が理想的である。部屋の雰囲気を落ち着いた色合いにする、音漏れを抑え静かな環境を整えるなどの工夫が、より安心感をもたらす理想的な生活環境を提供できる。

#### 6,参考資料

福島県立白河高等学校 学校便覧(平成30年度)

福島県立白河旭高等学校 学校便覧(平成30年度)

福島県立白河実業高等学校 学校便覧(平成20年度～平成30年度)

コミュニティ・カフェ EMANON「みんなの居場所 コミュニティ・カフェ EMANON」

裏庭編集部(2018)「高校生時刻表」

白河地区高等学校通学生徒保護者会(2018)「白河地区高等学校通学バスについて」

「路線沿線情報 福島県 白河(新白河)・棚倉」

<[http://www.jrbuskanto.co.jp/local\\_guide/local\\_shirakawa.html](http://www.jrbuskanto.co.jp/local_guide/local_shirakawa.html)>-2018年9月14日アクセス